

主催者

太平洋総合コンサルタント
株式会社

当社では環境調査（水質・土壌・騒音・振動・動植物等の調査・分析）地質調査、設計といった自然から都市までのあらゆる環境に関わる業務を総合的に行っています。

取組み
概要

④6 湿原に関する環境教育を実施します



取組み
の
ねらい

- ★次世代を担う子供達に自然の楽しさ、大切さを体験しながら学んで欲しい。
- ★環境調査を主要な業務とする会社として、何らかの形で地域に貢献したい。
- ★湿原に関する出張講座などを行い、湿原への関心を喚起する。

実施の
様子

日時・会場： 10月24日～27日 （4日間：2時間/日）

北海道標茶高等学校

参加者数： 対象者：高校1年生（1クラス約30人）

野外における体験型の環境教育の実施（水質・生物）

【授業内容】講師担当：川尻洋志・小林憲哉（環境科学部）

- テーマ 釧路川と牛舎糞尿の水質を比較しよう
- 方法 バックテスト等で2箇所の水質を調査し、グラフをつくる

1. 講師自己紹介
2. 今日の授業内容について簡単に説明（学んで欲しいポイント）
3. 徒歩にて釧路川に移動（10分程度）
4. 調査内容、バックテストの使用方法、グラフのつくり方等を説明（pH、COD、アンモニア、リン酸、溶存酸素量、透視度）
5. 川に入り、バックテストに挑戦
6. 色見本と見比べ、数値を求める



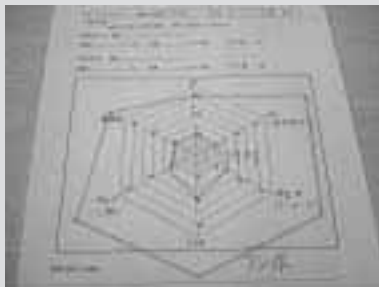
バックテストの方法を説明



バックテストに挑戦（釧路川）



色見本と比べる



六角形のグラフを完成

7. 結果をグラフにプロットする

8. 学校に戻り、牛舎裏に集合
9. 牛舎の糞尿（希釈）でバックテスト開始
10. 釧路川と糞尿の2つのグラフを比較（河川水との違い）
11. 家畜糞尿と河川の関係、糞尿を有効な肥料に変える方法等を説明
12. 質問（水質について、環境調査について、仕事の内容について）

留意した点

- ・出来るだけ難解な言葉を使わないように授業を行った。
- ・お互い緊張して固い雰囲気とならないよう、冗談を交えつつ身近な事例を挙げて説明した。



牛舎の糞尿でバックテストを実施



濁りの程度を調べる（透視度）

主催者の感想

- 時間的余裕が少なく（移動も含めて約2時間）、全体的に早口となってしまった。
- わかりやすく説明する事は仕事においても重要であるため、この授業は講師となった私たち自身にとって貴重な体験である。
- バックテストに生徒達が興味を持って取り組んでいる姿が見られ、大変うれしかった。
- 昨年は水生生物の調査も実施していたが、今年は水質調査のみの実施であった。
- 可能であればもう少し暖かい時期に実施したいところであるが、学校と相談して今回の時期となった。
- 生徒たちにとっては聞きなれない言葉が多かったと思うが、今後環境に関するいくつかの専門科目が選択可能となるため、その際にこの授業での経験が少しでもプラスになれば幸いである。

成果

- ★受講者数：約120人 ★実施内容：実施の様子参照
- ★地域の企業による社会貢献活動事例であり、広報・周知により他社への普及や地域ぐるみの環境保全活動への発展等が期待される。
- ★釧路川という身近な環境を専門家の指導により科学的に学ぶ活動としても貴重。参加者に環境科学への関心や、今後の進路を考えるきっかけを提供できたものと思われる。

